



Title	田中裕教授略歴論文等目録
Author(s)	
Citation	語文. 1981, 38, p. 113-116
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68684
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

田中裕教授略歴

大正七年九月九日

福岡県朝倉郡甘木町山領町生。のち法手続を経て三月二十八日生に改めらる。本籍鹿児島県出水郡阿久根村字

波留

大正十三年三月

京都府天田郡雀部尋常高等小学校尋常科入学

昭和二年十一月

京都府紀伊郡桃山尋常高等小学校尋常科第四学年に転入学

昭和五年四月

京都府立京都第二中学校入学

昭和六年四月

京都府立桃山中学校第二学年に転入学

昭和十年四月

第三高等学校文科乙類入学

昭和十年十月

病により休学

昭和十二年四月

復学

昭和十四年四月

京都帝国大学文学部文学科国語国文学専攻入学

昭和十七年一月三十一日

同学卒業。卒業論文「二条良基の連歌論」

昭和十七年二月二十五日

京都帝国大学大学院入学（昭和二十五年四月三日まで）

昭和十七年四月一日

大学院特選給費学生（同年十二月三十一日まで）

昭和十七年九月三十日

京都府立京都第一中学校嘱託
同校教諭

昭和十九年三月三十一日

教育召集により中部第三十七部隊入隊。二等兵

昭和十九年六月一日

教育終了。即日同隊に臨時召集

昭和十九年八月二十六日

召集解除

昭和十九年九月十日

陸軍通信学校入学

昭和二十年一月六日

病により退学

昭和二十年一月十五日

甲南高等学校講師。古典科担任

昭和二十一年五月三十一日

教員適格審査（近畿南部地区学校集団教職員適格審査委員会による）

昭和二十一年九月六日

昭和二十一年九月十四日

甲南高等学校教授

昭和二十五年五月十五日

大阪大学助教授。文学部勤務

昭和二十六年七月二十日

教員資格審査

昭和二十八年四月一日

学制改革により大阪大学助教授（文学部）に配置換。大学院文学研究科国文学専攻授業担当

昭和三十一年三月十三日

大阪大学より文学博士の学位授与。学位論文「中世文学論研究」

昭和三十三年四月一日

大学院文学研究科国文学専攻授業担当を免ぜられ、大阪大学大学院文学研究科担当（逐年現在に至る）

昭和三十三年十一月一日

大阪大学教授（文学部）

昭和四十四年五月十二日

大阪大学文学部長、大学院文学研究科主任併任

昭和四十四年九月四日

病により併任解除

昭和四十六年六月一日

大阪大学評議員併任

昭和四十七年四月一日

大阪大学文学部長、大学院文学研究科主任併任（昭和四十九年三月三十一日まで）

昭和五十六年四月一日

大阪大学停年退職

論文等 目録

妖艶—近代秀歌について

昭和二十一年十一月

国語国文十五卷一号

賦物について

昭和二十三年六月

国文研究第一輯

有心—毎月抄について

昭和二十四年二月

国語国文十七号十号

象徴に関する試論

昭和二十四年十一月

国語国文十八卷六号

中世の花—能の花

昭和二十五年十一月

語文第一輯

連歌の性格—良基の連歌論について

昭和二十七年四月

語文第五輯

最近の源氏物語成立論について

昭和二十七年七月

語文第六輯

連歌の性格（承前）

昭和二十八年三月

語文第八輯

定家仮託書の批判

源語提要・源語詠について

土橋家旧蔵書目録(一) 付解説

土橋家旧蔵書目録(二)

心敬連歌論の課題―その付合論序説

土橋家旧蔵本知連抄(翻刻)

時代区分の名称について

心敬の疎句体と理―その付合論研究(一)

新勅撰集序の問題

新古今・新勅撰集と時代区分

心敬と付合

師説自見集と了俊相伝定家歌論書

藤原公任の歌論

世阿弥の芸論

毎月抄批判―一つの偽書説

方丈記の正しい解釈のために―校異・訓み・評釈の諸説批判

仮名本詠歌大概―了俊と頼阿との場合

陽明文庫蔵「為兼卿和歌抄」について

短連歌の座

俊成歌論研究―景気と余情

風姿花傳

秀歌と定家歌論

思潮・流派の研究

詠歌之大概注解―定家歌論研究(一)

稿本末の原型について―定家歌論研究(二)

昭和二十八年十月

昭和二十九年一月

昭和二十九年八月

昭和二十九年十二月

昭和三十年三月

同右

昭和三十年六月

昭和三十年十二月

昭和三十一年七月

昭和三十一年十二月

昭和三十三年一月

昭和三十三年六月

昭和三十三年六月

昭和三十三年十二月

昭和三十四年三月

昭和三十四年三月

昭和三十四年八月

同右

昭和三十五年八月

昭和三十六年十一月

昭和三十八年十月

昭和三十九年五月

昭和四十年六月

昭和四十一年七月

昭和四十二年五月

国語国文二十二卷十号

語文第十輯

語文第十二輯

語文第十三輯

語文第十四輯

同右

文学史研究第一輯

語文第十六輯

語文第十七輯

文学史研究第五輯

国語国文二十七卷一号

語文第二十輯

国文学三卷七号

日本古典鑑賞講座十五卷 角川書店

創立十周年記念論叢 大阪大学文学部

解釈と鑑賞二十四卷三号

語文第二十二輯

同右

語文第二十三輯

大阪大学文学部紀要第八卷

懷徳第三十四号

中世文学第九号

国文学十卷八号

語文第二十六輯

語文第二十七輯

菟玖波集の俳諧

有心の課題―定家歌論研究四

新古今集とその周辺―歌風の特質について

中世文学論研究(単行)

連歌の発句

歌論と能楽論

藤原俊成

正徹物語

桐火桶摸索

藤原定家―紅旗の戎を征つは吾事に非ず

「新古今和歌集 烏丸本上下」解題

定家における余情妖艶

世阿弥芸術論集(単行)

後鳥羽院御口伝について

秘すれば花

新古今和歌集 烏丸本―天理図書館一人一撰

後鳥羽院御口伝の執筆時期

宣長の「新古今」理解

安田博士と新古今集

古今集の世界と新古今集の世界

隠岐本跋の問題

昭和四十二年十二月

昭和四十三年五月

昭和四十四年一月

昭和四十四年十月

昭和四十五年一月

昭和四十五年三月

昭和四十五年七月

昭和四十六年五月

昭和四十七年二月

昭和四十九年九月

昭和五十一年六月

昭和五十一年九月

昭和五十二年一月

昭和五十二年二月

昭和五十四年一月

昭和五十四年四月

昭和五十四年七月

昭和五十五年三月

昭和五十六年二月

昭和五十六年三月

中世文芸叢書別巻―広島大学国文研究室

語文第二十八輯

講座日本文学5 三省堂

塙書房

いそな二十七巻一号

日本の古典芸能3 平凡社

和歌文学講座7 桜楓社

短歌十七巻七号

語文第二十九輯

国文学十七巻二号

天理図書館善本叢書第十八巻

解釈と鑑賞四十一巻八号

新潮日本古典集成第四回 新潮社

国語と国文学五十四巻一号

解釈と鑑賞四十二巻三号

天地二巻一号

語文第三十五輯

季刊日本思想史11

甲南大学紀要文学編36

国文学別冊9

語文第三十八輯